

2009年度

科目名	国際協力論A			コード	53600
担当教員	岡島 克樹				
配当	人社2				
開期	前期	講時	金曜日3限	単位数	2
授業テーマ	日本と途上国とはどのようなつながりがあるのかを考える。				
目的と概要	人・モノ・カネ・情報が大量にかつすばやく行き交うグローバル化の中で、今日、途上国と先進国間の「つながり」はますます強まっている。本講では、特に人とモノについて取り上げて講義を行い、「国際化」と「グローバル化」の違いや「つながり」の統合化と分裂化という「グローバル化」の諸特徴について、理解を深めながら、「グローバル化」をどのように評価すべきなのかを考える。				
成績評価法	授業への参加・協力(発言・グループワーク、外部講師招聘時の参加)(20%)、期末レポート(80%)				
テキスト	特に定めない。				
参考書	必要に応じて紹介する。				
履修に当たっての注意・助言	3回生時に履修できる「地域研究実習」の一環として実施するカンボジアスタディツアーとこの「国際協力論」の間には強い関連があるので、スタディツアーに参加を希望している人はこの科目の履修をお勧めします。				
講義計画					
<p>講義は、グローバル化に関する文献の読解の他、日本のグローバル化理解教育の中で最近用いられ始めてきた「貿易ゲーム」「コーヒーゲーム」といったゲームの体験、『エビと日本人』『あぶない野菜』といった日本人の消費行動と途上国の関係について扱った映像教材や『絆・パパを帰して?難民家族の6年の記録』という自由を求めて来日した難民家族を扱ったドキュメンタリー番組(TBS製作)の視聴、実際に難民問題に関連する活動を行う団体の代表等を外部講師として招いて行うトークショーの聴講などをバランスよく振り分け、途上国と先進国が持つつながりという普段あまり意識しない問題について、「気づき」を大切に授業をこころがける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:本講義の構成・評価等に関する説明 2. グローバル化の定義(その1): 文献読解 3. グローバル化の定義(その2): 文献読解 4. モノを通じたつながり(その1):「貿易ゲーム」体験 5. モノを通じたつながり(その2):前回の続き 6. モノを通じたつながり(その3):「コーヒーゲーム」の体験 7. モノを通じたつながり(その4):前回の続き 8. モノを通じたつながり(その5): 視覚教材『あぶない野菜』を見て、日本人の食生活と途上国の関係を考える。 9. モノを通じたつながり(その6): 飢餓教育—ある学生の卒論から 10. ヒトを通じたつながり(その1): どのような種類のヒトを通じて、先進国と途上国がつながっているのかを考える。 11. ヒトを通じたつながり(その2):『絆・パパを返して?難民家族の6年の記録』を視聴して難民問題を考える。 12. ヒトを通じたつながり(その3): 難民問題の概要および対応の解説(外部講師) 13. ヒトを通じたつながり(その4): 難民問題の具体的事例を紹介する(外部講師) 14. レポートの書き方指導 15. まとめ <p>本講では、予算の許す範囲において、大学の外にある人材を外部講師として学内に招き、国際協力の現場について語っていただくので、外部講師が話をされる回については必ず参加するようにしてください(出席点あり)。外部講師が来校される日程が決まり次第、講義の中で伝達する。</p>					